

宮城県指定有形文化財 『木造円光大師像』



(寄木造 像高86.4cm 鎌倉時代)

円光大師とは、浄土宗の開祖である「法然上人」のことで、鎌倉時代に身分の上下や職業の貴賤を問わず、阿弥陀仏を信じ、「南無阿弥陀仏」と唱えれば極楽往生ができると説きました。

東北地方では、法然上人の弟子である金光上人により、福島県の会津を初めに布教が始まり、現在の栗原市栗駒に往生寺が開かれました。時代が流れ、大崎義隆が夢で聞いた法然上人の声に従い、色麻の地に寺を建立し、像を安置したと伝えられています。

法然上人の像は、浄土宗の広がりとともに全国で安置されましたが、往生寺の像は全国の大師像の中でも古いもので、新たに興った宗派の開祖らしい迫力をたたえています。

なお、今年平成23年は法然上人御忌800年にあたります。